

Kinuta Park

砧公園

「みんなのひろば」  
に行ってみよう!



# ようこそ

Welcome

砧公園「みんなのひろば」は、  
年齢や性別、能力、経済・社会的背景などの違い  
にかかわらず「すべての人」が  
一緒に遊べるようにつくられました。

本当に「みんな」が遊べる場所となるには、  
できてからどう使うかも肝心です。  
令和2年3月にオープンしてから、  
みんなの声を聞きながら、  
ひろばが育つようにと取り組んできました。

その内容を伝えるために、  
「みんなのひろば見学会」を行いました。  
その様子をこの冊子でお伝えします。



私も行ってみよっと!

Kinuta Park



## ある日の 見学会



10:00

みんなのひろばオレンジ門前に集合  
砧公園サービスセンターからのあいさつ



ベビーカーや車いすを使っている  
子どもも参加してくれました。



公園の概要を説明してから、ひろば  
見学にGO!



10:15

みんなのひろばをぐるっと  
1周まわりながら、説明



公園での過ごし方や悩みなど、利用し  
ている子どもや大人の声を伝えました。



10:45

自由見学



自由見学の後には、それぞれが感じた  
ことを振り返り共有しました。



11:00

感想の共有



11:30

解散

※見学会の時間は、あそび場も  
運営しました。



お絵描きコーナーなどの遊び場を併  
設。遊びがきっかけで親同士の交流  
の場へ発展!

# 風を切る爽快感

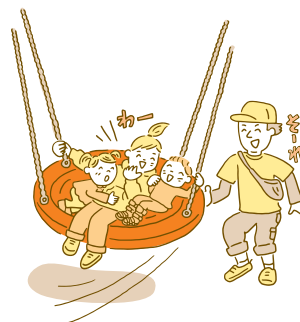
風を切る爽快感や浮遊感を体感するのは、とても楽しいですね。  
 そんな楽しさを感じる遊びの1つに、ブランコがあります。  
 カゴ型ブランコは、寝転んで乗ったり、何人かで乗ったりもできます。  
 カゴ型や背もたれがあると、体幹が弱くて自力で座ることが難しい子どもや、手の力が弱くて鎖を握ることが難しい子どもも、楽しく遊べます。  
 でも、今はまだ珍しいこともあって行列ができてしまうことがあり、それが時にはインクルーシブではない状況を生み出します。順番待ちが苦手な子どもがいたり、カゴ型しか乗れない子どもの保護者が「乗り降りに時間がかかるので、まわりに迷惑をかけるのでは」と気後れしてしまったりすることがあるからです。

「カゴ型が家の近所の公園にもあったらいいな」という声は聞きますが、これだけがあれば良い訳ではありません。「普通のブランコが一番好き」という子どももいます。その理由は「自分で漕げるから」。  
 選択肢があって、それぞれの遊び方ができることが大切なんです。

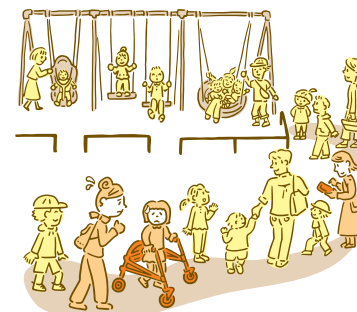
普段から隣りの人同士で気軽に会話ができると、いざという時にも助け合いがしやすいよね!



# 順番を待つ気持ち

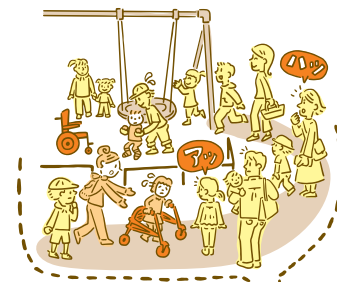


カゴ型ブランコは、寝転んだり一緒に乗れたり、いろんな遊び方ができて楽しい!

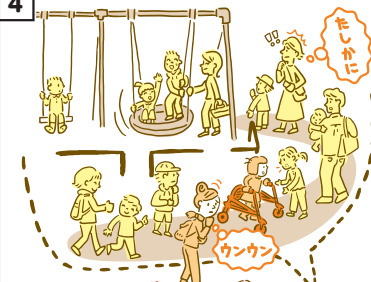


でも、人気があるので行列ができてしまうこともある。

1 2  
3 4



「歩行者を使っている子どもが長時間待つと腕が疲れてしまったり、乗るのに時間がかかってしまったりする子どももいます」



「『順番を譲ったり、お手伝いしたりもできるけど』と心で思っても、『どうやって声かけしたらいいかな。コーディネーターがいるといいな』という声もあります。」

→P18も見てね!

## 音が重なっていく楽しみ

カ〜ンカ〜ン! ド〜レ〜ミ♪

音が鳴ることは、それ自体が楽しいです。

木の枝でフェンスをカンカン鳴らしたりするのも、音や振動を楽しむ遊びのひとつです。木の葉のざわめき、落ち葉を踏む音、鳥が鳴いたり風の音がしたり、雨が何かに当たる音、耳をふさいで自分の心臓の音を感じたり、いろいろあります。

それらが重なりあって聞こえてくるのはとても楽しいです。

こんなふうに音がきっかけとなって、子どもの遊びは広がります。

遊び場にある鉄琴も、小さい音や大きい音、自分の叩き方や力加減によって音が変わっていきます。

その時の気分にあわせて叩いたりリズムをとったり、時には歌を口ずさんだりして、その場が盛り上がっていきます。

音の力ってすごい!  
気がつけば、知らない隣の子とも  
セッションして遊びはじめてるよ!



## 1人より2人、2人より3人



落ち葉を踏む音、  
木のざわめきも聞こえてくるよ!



木の枝で叩くと  
違った音が鳴るね!



## 👁️ 気がついたらいっしょに揺れている

リズムカルな揺れを体感する遊びもあります。

みんなのひろばにあるシーソーは、足元に大きなスプリングがあり、体重差がある大人と子どもが乗っても、片方に傾かずゆらゆらと揺れるのです。

大きな板なので何人でも乗れますし、乗り方も、座ったり立ったりということができます。中央に立ってバランスをとったり、軽い方に移動したりと、遊び方を発見していくようです。

小さな子どもや体幹の弱い子どもの体を支えて乗ることもできるし、大人も気兼ねなく乗れるので、誰もが関わりやすいです。だからなのか、たくさんの方が集まってきます。

「ゆらゆらと一緒に揺れたい」そんな一体感を味わいながら、居場所のようになっていることもあります。

遊んでいる子の親同士が、気がついたらおしゃべりしていた、なんてこともよくあるんだって！



## いっしょに揺れると楽しい



座っても立っても楽しいね。



自由に移動する子もいます。



大人も一緒に楽しめます。



# その場にいる子といっしょに遊ぶ

ぐるぐる回る、みんなが好きな遊びもありますよ。

立ったり座ったり、スピードをゆっくりしたり速くしたり、みんなでまわすと予想以上のスピードが出るという変化も楽しめます。

子どもたちの様子を見ていると、好きな場所でパッと降りて、近くにいる子がパッと乗っています。順番待ちの場所が決めにくいので、ブランコのように列が作りにくいのです。だから、待っている子の近くで降りる子がいなかったり、席に空きがあってもスピードについていけなかったりすると、なかなか乗れない! なんてことも…。

そんな時、子ども同士で気づかう場面が見られます。小さな子どもが乗る時にはスピードを落としたり、乗れない子どもがいることに気づき回転を止めて「ねえ、ここあいてるよー」と声をかけたりしています。

そうした場面に出会うたびに、子ども同士の交流が生まれているな～と感じています。

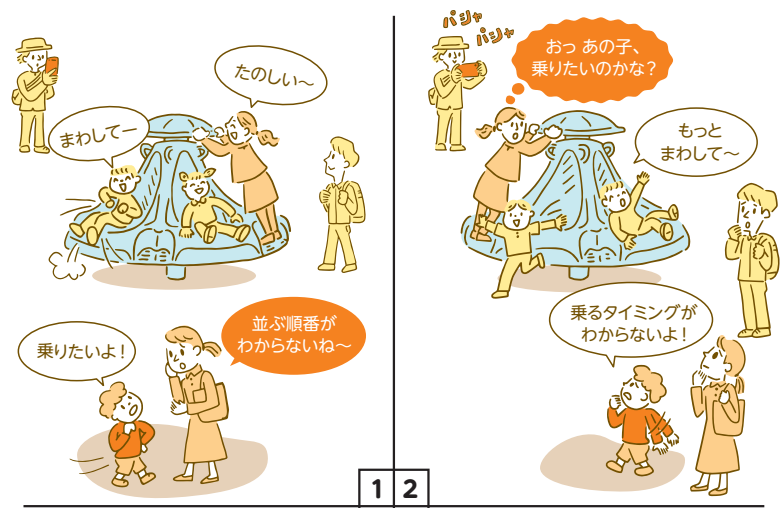
子どもなりに、  
いろんなことを考えて  
遊んでいるんだね!



の一せて



# ぐるぐる de ともだち



1	2
3	4



## 自然は遊びの宝庫

自然の中は、未知との遭遇だらけです。

みんなのひろばのまわりには、落ち葉や小枝、小石がいたるところにあります。不思議な形をしていたり、鮮やかな色や模様がついていたり。気がつくと次々に拾いたくなります。集めた小石や葉っぱは、自分だけの宝物です。

夏には、網を持った子どもたちがセミやバッタを探したり、もぐらが出てこないか穴を見続けたり。

秋にはどんぐり。大きさや形の違いに気づくと「あれも、これも」とどんぐり拾いが止まらなくなります。風にハラハラ舞う落ち葉を集めてちょっと小山にしておくと、崩しに来る子や寝転ぶ子、カサカサする音を楽しんで踏んでいる子もいます。

子どもだけじゃなくて  
大人も夢中になっているね!



## 五感で感じる遊びのいろいろ



# 『こうなったらいいな』

みんなのひろばは、みんなで育てていくひろばです。

育てていってどんなことかという、「こうなったらいいな」と思ったことをみんなで話し合いながら少しずつ実現して、もっと使いやすく居心地の良い自分たちのひろばにしていこうです。

例えば、門の扉。

みんなのひろばを囲む扉やフェンスは白一色で「どこに扉があるのかわかりにくい」という声がありました。「門扉に色を塗るとわかりやすいのでは」という声を聞いたので、公園に遊びにきている人たちに「何色にしたらいいか」を聞いてみました。

3ヶ所ある扉をそれぞれ違う色にしては？  
今日は○色の扉で待ち合わせもできるね!



目が見えにくい人にもわかりやすい色にしては？  
オレンジなどの目立つ色や、  
ユニバーサルデザインカラーから選ぼう!

こうした声を聞きながら、みんなのひろばは  
どんどん変わってきています。

みんなの声を  
聞きました!



子どもたちの描いた絵が  
掲示板を飾っているんだって!



## みんなで育てて、こんなのができた!

### 2021年度の実現



門扉をオレンジ、みどり、青の3色に塗りました。(各扉にはどんぐりこうかんポケット付)



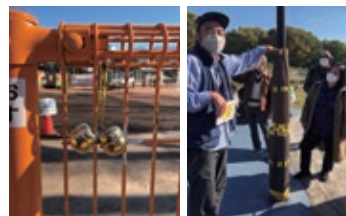
お絵かきコーナー  
から生まれた  
イラストたちです

付箋にみんなの意見を書きとめていたら、子どもからの「付箋に絵を描かきたい」との希望でお絵かきコーナーが始まりました。その中のいくつか、掲示板を飾ってくれています。



子どもが遊ぶには、大人の居心地良さも大切。夏には「日除け」をつけました。

### 2022年度の実現



トイレは誰にとっても重要です。「車いすで入れるトイレの場所がマップではわかりにくい」との声を聞いて、方向と距離を表示に追加しました。



目が見えない保護者からの提案で、扉に鈴をつけました。みんなが開閉する時に鈴の音がすることで、自分のいる位置が確認しやすくなるそうです。また、街路灯にぶつかっても痛くないようにと子どもの高さに巻いた緩衝材を、大人の高さまで追加しました。付き添いの大人のことも考える必要があることを教えてもらいました。





## みんなの声

人気のある遊具は数を増やしてほしい。あまりに混んでいて遊べない子どもたちもいるんです。

このような公園があること自体が良いこと。前向きな気持ちで「出かけよう!」と思うことができます。

今、自分のそばに子どもがいないのですが、子どもが親にくっついていないでも大丈夫なくらい、みんなに遊んでもらいました。今日の見学会のように、少し見守ってくれる人がいれば安心して遊べるんですね!

公園デビューは、みんなドキドキものだと思いますが、障害がある子どもを持つ親は本当にドキドキしています。ちょっと声をかけてくれたり、あたたかい目で見守ってもらえると和らぎます。ずっと一緒にいてくれなくていいんです。少しでもいいから理解ある人がいると嬉しいのです。

「なんで車いすに乗っているの?」と聞いてくれる子どもがいました。自分をはじめ、自分のまわりの車いすユーザーの親は、気軽に聞いてほしいと思っています。それにより自然と会話が生まれ、交流ができるから。今日の見学会は短時間だったけれど、子ども同士の交流が生まれて、すごく嬉しかったです。

そもそも公園に行かないです。遊べないと思ってしまうと足が遠のいてしまっ…。

「こんな大きな子どもが、どうしてブランコに乗るの?」と言われ、本人がしゅんとしてしまったことがあります。今日の見学会はコーディネーターさんや他の参加者もいて、のびのび遊べました。

車いすを使用している人や呼吸器をつけている人が、どうやって遊ぶかを一緒に考えたいな。

サポートがないと不安で、これまで来なかったのですが、見学会が良い機会になりました。

幅が広いすべり台が印象的。心配して見守るだけでなく一緒に遊べました。

「ひろばをみんなで育てている」という話を聞いて、公園のインクルーシブって私たちの考え方で変わっていくところなんだ!! と思いました。

できる範囲でゆる〜く楽しみながら、周囲に目を向けてみるだけで、心が動くことがあると思います。ゆっくり思いを語りあいながら、居心地の良い場所になることを願っています。

自分の子どもだけでなく、他の子どもにとっても遊びやすい環境とは何だろうと改めて考える機会となりました。

まだ安心して遊ぶことができない人の意見を改めて聞いて、一緒に考えていくことが大切だと感じました。

見学会の参加者同士でサポートができました。一緒に過ごす中で「こんなところが大変なんですな」などと会話ができたのが良かったです。

利用者からの声を反映して、ブラッシュアップしている姿勢が素晴らしい!

混んでいる時は、車いすから遊具に乗り移るのに時間がかかるので気を使ってしまう。ハード整備だけではなく、ちょっと手助けしてくれる人の対応がとっても大切だと思います。

聞いてみないとわからないことがたくさんあるね!

子どもの遊び方の自由さに驚くのと同時に、自分も小さい頃はそうだったな〜、と思い出しました。



# 👁️ これも育てることの一つ

見学会にあわせて、遊びの場をつくりました。

どんぐりジェットコースターやけんけんば、お絵描きコーナーなどです。

どれもあつという間につくることができます。

例えば、どんぐりジェットコースターは、雨どいを木の柵の上に乗せただけ。簡単なつくりなので、ちょっとぶつかったりすると雨どいが外れてしまいます。実はこれ、わざと壊れやすくしているのです。

「大丈夫だよ、一緒に直そっか!」とプレイワーカー\*がまわりの人たちに声をかけます。すると子どもだけでなく保護者も一緒に直してくれます。次にまた雨どいが外れたら、プレイワーカーがいなくても近くにいる人たちが直せるようになります。

こうして、自分の子どもだけでなく、近くにいる子どもや保護者とも一緒に直すことで、ちょっとした会話が生まれるきっかけになります。

そういう雰囲気がこのひろば全体に広がれば、ブランコで行列ができた時も「順番変わりましょうか?」「お手伝いしましょうか?」と、遊びにきている人同士で声かけができるようになっていくと思っています。

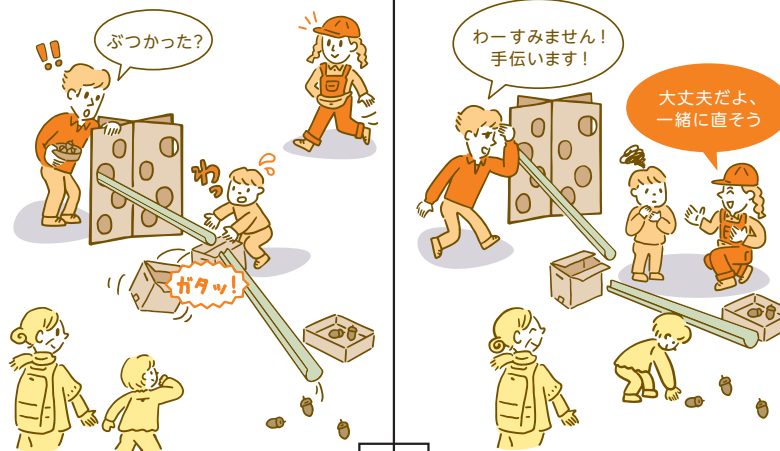
今回、この雰囲気づくりのきっかけをプレイワーカーがつくってきましたが、みんながこの役割をできるようになっていくように促すことが大事。こうした積み重ねが、インクルーシブな遊び場をつくっていきと信じています。



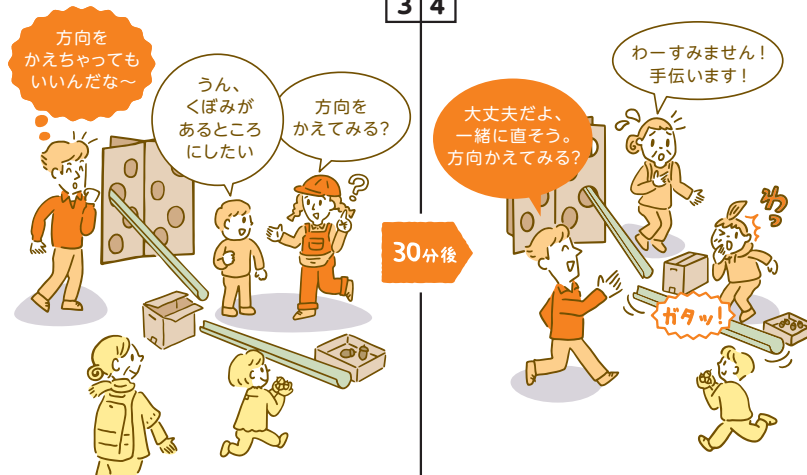
自分たちでつくっていくことで、インクルーシブな遊び場になっていくんだね!

\*プレイワーカーとは  
子どもが自ら遊び育つ  
環境づくりの専門家

## ちょっとしたことだけど



1 2  
3 4



30分後



**発行**

公益財団法人 東京都公園協会

**制作**

一般社団法人TOKYO PLAY /  
場所づくり研究所プレイス

**編集**

宮地成子(プレイス)  
神林俊一(TOKYOPLAY)  
大野さゆり(TOKYOPLAY)

**写真**

壬生真理子(arTeaTreaT)

**4コマイラスト**

本城晴美

**デザイン**

カタヤナギユウイチ

2023年3月 発行

